

2023年1月28日（日曜日）に、前ヶ崎の宝蔵院で不動びしゃ（女びしゃ）が行われました。

宝蔵院のお世話をされている関係者の御厚意で、女性班7人がおびしゃの準備などを拝見させていただくことができました。普段は扉が閉まって拝見することができない本堂や不動堂の中も見ることができました。

また、博物館の北沢次長がおられ、いろいろ説明をしてくださり、とても良い勉強になりました。

お二人のお話を下記にまとめました。

直会（社務所）

○当番が掛け軸、供物、飾り物を用意し、床の間に飾ってありました。参加者15名（女性）

- ・掛け軸 不動明王
- ・供物 酒やジュースの飲み物
季節の果物 など
- ・鶴亀のお飾り 1月22日の前ヶ崎香取神社で行ったものをそのまま使用 松竹梅
折り紙の金銀の紙で折った鶴
(例年は白)
聖護院大根で作った亀



当番について

当番は1年交代、香取神社で秋の例祭（10月19日、20日）がある19日に、新旧各4組の夫婦で参加し、来られない場合は来た人数で、おびしゃの段取りなど受け継ぎます。10月19日に引き継ぐのはおびしゃでつかう農作物の大根や人参などを植える準備が必要だからです。当番の仕事は、1月1日に始まります。その他の住人も集まり、香取神社で惣代の挨拶があり、酒で乾杯します。

おびしゃについて

おびしゃに向け、当番は、お飾りの鶴亀を作るなどの準備をし、食事を用意します。昔は煮物を作るなど大変でしたが、今はお弁当（赤飯など）を買うようになり、弁当の発注だけをします。

亀は聖護院大根を2つに切り、牛蒡の葉がついている方で亀の頭を作り、4本の足と尻尾を付けます。甲羅の模様は、マジックでも筆で描いてもよいとされています。準備には、男性も参加します。

おびしゃの席順について

来年当番の方が上座にすわり、現当番は入り口で接待をします。
 現当番が、始まりの挨拶をし、上座の次期当番の所に行き、
 新旧各4組8人で「よろしく」と挨拶します。
 コロナ禍前は酒を飲みかわしました。



座り方

次に、乾杯、食事です。漬物、甘酒、小豆御飯は、当番手作りです。最後に甘酒を飲み、新当番の締めの挨拶と次年度の意気込み等の話で終わりになります。女びしゃは、コミュニケーションの場でもあり、おしゃべりの場でもあります。

男びしゃについて

男びしゃの日はいろいろ変わりましたが、来年からは、もとの1月20日に戻ることになりました。弓矢で射ることは行わないようです。今年は、1月22日に香取神社で疱瘡びしゃも含めて行いました。

現在までのおびしゃについて

昔は、不動びしゃ 1月27日 宵宮 不動堂で、1軒から1名参加（男性、女性）御籠りし、飲み明かす。
 宵宮は、平成の最後で廃止。

1月28日 直会 女性 食事会、当番が用意した小豆御飯を重箱からひとつまみずつ食べ、最後に甘酒を飲む。当番の引継ぎを行う。

疱瘡びしゃ 2月 1日 男性参加、香取神社

(*日本では古くから赤い色には邪気を祓う力があると考えられており、災いを避ける、魔除けの意味で小豆御飯をふるまうようになりました。古間木の吉野家日記の中には、お祝い事だけでなく不幸の際にも赤飯が用いられました。また、小豆も育てられていました。)

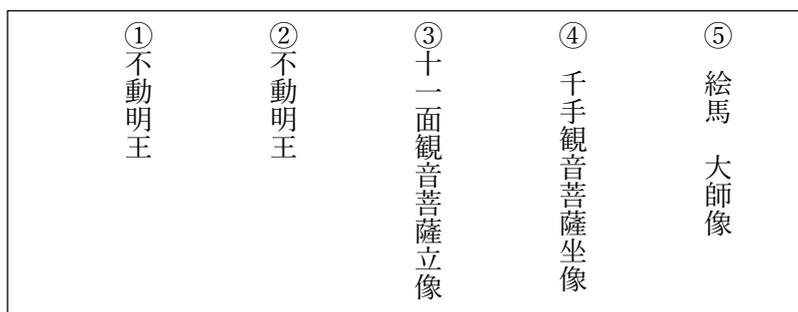
博物館調査研究書「流山のおびしゃと祭り」昭和59年から

おびしゃ 1月20日 香取神社

当番は宿(ヤド)と言い、一番最初の家をハナヤドといい、神事・直会の会場となったが、その家が人寄せができないと4戸で相談して決めた。当番は1年間びしゃ田(地区を流れる用水を利用。1kmに、幅の半分ほどに4条の苗を植えた。)の耕作を行った。準備は宿と青年会(16歳から40歳の男子)が行う。19日にハナヤドに集まって神饌・料理などを準備した。20日は午前中から宿の者と青年会が料理などを作った。10時ごろ触れが廻り各戸主が羽織を着て、宿に集まった。戸主が集まると、直会(本膳を出す中食とトウ渡し後の酒宴)が始まる。その後、各家の主婦が本膳をとる。夕方近く、オトウといわれるトウ渡し(当番の引渡し)が行われた。

神饌は、蓬萊山・鶯・稲の花とよばれる飾り物と本膳である。蓬萊山は鶴亀である。亀は聖護院大根を二つ割にし、牛蒡で首や足をつける。皿に大根を切ったものを置き、その上に亀のつがいを向かい合わせる。かめの背中に松・竹・梅の枝を立て、竹に折り鶴のつがいをつける。鶯はアオキバの実を取ってきて、竹にさしたものである。稲の花は稲の粃をとったあとのものの先をしめらせ米の粉をつけたもので、2本を供える。

不動堂





① 不動明王

(願文等) 成田山 御手長
 (紀年銘) 安政二乙卯 三月吉日
 (造立者・その他) 幸田村 (人名5) 東平賀 (1)
 金町 (2) ニツ木村 (1) 横須賀 (2)
 上本合 (1) 向小金新田 (2) 中新田 (1)
 (ほか人名有)
 (像容) 坐像 2童子 (形態) 火焰 (総高) 152cm



② 不動明王

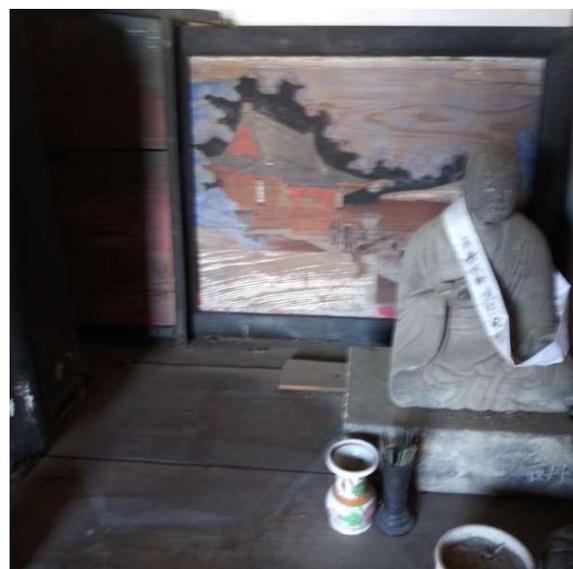
種子 (カーン)
 貞享二乙丑年 八月吉日
 権大僧都法印祐盛
 前ヶ崎村 宝蔵院
 立像 船 98cm



③十一面観音菩薩立像
 銅造 彫眼
 頭光及び身光、蓮華座
 江戸時代 25cm



④千手観音菩薩坐像
 木造 玉眼 漆箔
 蓮華座
 江戸時代 21cm



⑤絵馬 大師像
 寺院参詣の図 62.2×81.8cm

本 堂



阿弥陀如来立像 江戸時代か

寄木造か 玉眼 56,1cm
金泥 拳身光 蓮華座



その他

① 文書箱

大正4年正月
前ヶ崎宝蔵院

② 梵鐘

③ けいす



① ②は博物館次長の北沢さんも初めて見るものと話されていました。

* 阿弥陀如来坐像は現在修復中とのことです。

宝蔵院には「秩父巡拝の図」嘉永元年（1848）という絵馬も伝わっています。

そちらには次のような墨書が書かれています。

願主 山中伝左衛門

世話人 中山作左衛門ほか同行連 20名

〔狩野□光斎栄信〕

裏面に「二世安楽 家内安全」とあり、秩父巡拝のほか、善光寺、日光、筑波に参詣したことがわかる。同行連はほとんどが女性。 流山市史文化財編記載

他にも三重の塔のような建物がある寺院が描かれた絵馬もあり、これらの地域に参詣することが行われていたと考えられます。

参考

- | | | |
|-------------|-------|----------|
| ・流山の仏像 | 昭和58年 | 流山市立博物館 |
| ・流山のおびしゃと祭り | 昭和59年 | 流山市立博物館 |
| ・流山の石仏 | 昭和62年 | 流山市立博物館 |
| ・流山の絵馬と額 | 平成3年 | 流山市立博物館 |
| ・流山の講 | 平成3年 | 流山市立博物館 |
| ・流山市史 文化財編 | 平成4年 | 流山市教育委員会 |